

秋田市子ども・子育て未来プラン 平成23年度実績等に対する提言

取組・事業No. (取組・事業検証 シート掲載ペー ジ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
1021 (P9)	乳幼児健康診 査	幼児発達記録票の試行活用実施について(4歳児)、平成24年度は全公立保育所に拡大し活用方法を検討するとあるが、民間保育所へも拡大してほしい。	平成24年度実施予定の全公立保育所での試行実施結果を踏まえ、全市的な活用に向けて検討していきたい。	池田委員	子ども 健康課
1026 (P14)	むし歯予防教 室	主に1歳児とその保護者を対象にしているが、保育所でも開催できたらよい。講師(歯科衛生士)派遣など検討してほしい。(例)歯みがきの実技指導など	現在も、保育所や幼稚園等からの依頼があった場合は、歯科衛生士の派遣を行っている。今後も、業務の調整が可能な範囲で対応していく。	池田委員	子ども 健康課
102-10 (P18) 1064 (P41)	こんにちは赤 ちゃん訪問事 業	核家族化が進行していて、産後間もないお母さんは育児に対してとても不安を抱いていると思われるので、子育てに関する助言・育児相談も兼ね、継続してほしい事業である。	こんにちは赤ちゃん訪問事業では、生後4か月未満児のいる家庭を訪問し、様々な悩みや不安を聞き、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の心身の状況、養育環境等の把握および助言を行っている。今後も、支援が必要な家庭に対し、早期に適切なサービス提供ができるよう事業を継続していく。	池田委員	子ども 健康課
1031 (P21)	予防接種事業	ヒブワクチン、日本脳炎、風しん等は無料のようであるが、おたふくかぜ、水痘は1人あたり6,000円くらい経費がかかるようである。少しでも、補助(助成)があるよう希望する。	日本脳炎・風しん等、予防接種法に基づく定期の予防接種は無料で実施している。 また、任意予防接種のうち、国の補助事業である子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌のワクチン接種についても無料で実施している。 おたふくかぜ、水痘については、任意予防接種であるため自己負担となるが、国では定期予防接種化について検討しているため、今後の国の動向を注視し、対応していく。	池田委員	健康管理課
1042 (P24)	乳幼児医療費 の助成	県・国に対して、制度の拡充を引き続き要望し、検討してほしい。	県は、平成24年8月から所得制限基準額を緩和し、対象も小学生までとした制度拡充の実施を決めており、これを受け、本市を除く24市町村が同月からの制度拡充を予定している。 本市においては、抵抗力が弱く病気にかかりやすい乳幼児や、低所得者層に特に手厚くすることを念頭に、平成25年8月からの制度拡充を予定しているとともに、市民要望の強い病児保育の実施等とあわせた総合的な子育て支援策の構築を予定している。	池田委員	障がい 福祉課

取組・事業No. (取組・事業検証シート掲載ページ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
1061 (P38)	要保護児童対策地域協議会	児童虐待の未然防止、早期発見に対応し、実績があるにもかかわらず、平成24年度の予算が前年度に比べ極端に少ないように思うが、内容等によるものか。	平成23年度は、県の児童虐待防止対策緊急強化事業補助金を活用して、大規模な児童虐待防止啓発イベントの開催や職員等の資質向上を図るための研修会への参加費等の予算を計上し、執行したが、当該県補助事業は単年度限りであるため、平成24年度の事業予算全体としては、23年度と比較して減額となっている。 24年度も、引き続き、児童虐待の未然防止と早期発見・早期対応を図るため、関係機関との連携強化や支援体制を整備していく。また、規模は縮小となるが、市民向けの啓発イベントも継続していく。	池田委員	子ども未来センター
1073 (P45)	児童扶養手当支給	近年離婚率が増加している。平成22年度から父子家庭も支給対象になったことは喜ばしい。今後も安定した収入を得るための就労支援に力を入れてほしい。就労支援事業が平成23年度で終了したことはとても残念である。	主に母子家庭の母を対象に実施している「就業支援講習会」、「自立支援教育訓練給付金」、「高等技能訓練促進費」の3事業により、引き続き、ひとり親家庭の親の安定した就労に向けた支援を行っていく。	池田委員	子ども総務課
1087 (P54)	私立保育所障がい児保育事業	必要な保育士を配置していただきありがたい。しかし、現場では、「障がい児」と認定されていなくても気になる子、手のかかる子が年々増加している現状である。国の動向も変わってきているが、市単独で保育士の年齢配分の加配をもう少し緩くしてほしい。よろしく検討のほど、お願いする。	本市では、市単独事業として障がい児保育事業の対象児童を拡大するため、特別児童扶養手当、身体障害者手帳、療育手帳交付児童に加え、関係療育機関により何らかの発達障がいの判定を受けた児童に対しても、軽度障がい児と認定し、一定の保育士加配経費を補助する制度を行っている。市単独による年齢ごとの保育士配置基準の緩和については、待機児童対策や国の子育て支援制度の動向を見ながら検討していく。	池田委員	子ども育成課
2012 (P59)	私立保育所一時預かり事業	普段、配置保育士は基準どおり配置されているが、余裕がないとなかなか受け入れが困難な実情である。事業実施保育所に対する補助金の見直しをしてほしい。	一時預かり事業の利用児童数は、全体としては緩やかに増加しているものの、同時に実施保育所も増加しており、1施設あたりの平均児童数は減少傾向にある。補助金の見直しについては、利用児童数の推移や国の子育て支援制度の動向を見ながら検討していく。	池田委員	子ども育成課
2052 (P95)	放課後子ども教室推進事業	児童クラブ(有料)が配置されていない地域の児童は、児童館等を利用している現状である。就労している保護者のためにも開館・閉館時間の見直しをお願いしたい。 夏休み・冬休みの期間中は、開館時間(8:30→7:30~8:00へ)、閉館時間(18:00→18:30頃へ)の延長を考えてほしい。	平成24年9月1日から児童館等の開館時間を、平日は午後1時30分から午後6時30分、土曜日と学校の長期休業日は午前8時30分から午後6時30分とする。	池田委員	子ども育成課

取組・事業No. (取組・事業検証シート掲載ページ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
3022 (P115)	幼児スポーツ教室	他の保育園(所)・幼稚園児と共有し、運動遊びができる、また、普段あまり体験することのできない遊具等で運動遊びができるよい機会なので、継続してほしい事業である。	遊びながらスポーツの楽しさを体験してもらうことを目的に開催しており、参加した園児からは楽しかった、園からは次回もまた参加したいという声が多く寄せられている。対応する職員等の問題もあるが、そうした声に応えるべく、今後も事業を継続して実施していく。	池田委員	スポーツ振興課
3045 (P128)	親のためのセミナー	シングルマザーも年々増加しているように思われる。就労、子育て等で親自身大変な家庭もあるようである。内容の充実を図り、参加者の増加を呼びかけてほしい。	シングルマザー対象講座は、参加者増となるよう企画内容の工夫や託児の受け入れ、開催時期を考慮し開催している。また、開催案内については、広報あきたや市ホームページ、公共施設等へのポスター掲示、新聞掲載など、あらゆる手段で周知しているところである。今後も、シングルマザーが参加しやすいように配慮し、講座内容の充実を図るとともに、親同士が情報交換し、交流を図れるような機会を提供していく。	池田委員	女性学習センター
3058 (P138)	学校体育施設の開放事業	地域活性化のためにもスポーツ教室などを実施し、ぜひ内容を見直し、展開してほしい。	市民のスポーツ活動の場として、開放日を多くの市民に周知するとともに、地域の実状に応じた利用方法などを学校や地区体育協会など関係団体と協議し、利用方法などを検討していく。また、スポーツ推進委員、市民スポーツ普及員の協力を得ながら、学校開放時のスポーツ教室を開催する。	池田委員	スポーツ振興課
3084 (P152)	街頭巡回指導	市で委嘱している少年指導委員の巡回指導が年々増加しているのびっくりしている。やはり、夜遅く駅構内にも高校生など、たくさんいるのを見かけるときもある。部活などの理由によるものであろうが、巡回指導の徹底をお願いしたい。	平成24年7月1日から新たに294人の方に少年指導委員を委嘱している。 街頭巡回指導については、毎月3回実施している定例街頭巡回(秋田駅前周辺)のほか、特別巡回(千秋公園観桜会・土崎港まつり・セリオン花火大会・竿燈まつり・雄物川花火大会時の巡回)や地区巡回(各9地区の独自計画に基づく、登下校のあいさつ運動・地域の祭り・遊技施設等の巡回)を、引き続き実施していく。	池田委員	子ども総務課(少年指導センター)
5017 (P210)	通学時における安全確保と適切な指導	交通量が増加し、通学時の交通事情も変化してきている。(農村地域でも)通学時の安全確保は、地域のみなさんの協力が必要であり、予算はゼロであるが、継続してほしい事業である。	今後も、学校、PTAおよび町内会などと連携し、子ども達が安全で安心して登下校ができる環境づくりに努めていく。	池田委員	学事課

取組・事業No. (取組・事業検証シート掲載ページ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
5031 (P216)	交通安全教育事業	保育所等でもそれぞれ独自に交通安全指導を展開、実施しているが、外部からの安全指導教室は子ども達にとって内容も幼児向けに工夫されており、効果はある。継続してほしい事業である。	今後も継続して実施していく予定である。	池田委員	交通政策課
4024 (P176)	積極的に取り組む企業の社会的評価	建設工事以外にも入札参加資格において、「認定」加点を検討してほしい。	現状では、入札参加者資格審査における加点措置が可能な業種は、格付けがある建設業者に限られていることから、建設工事入札参加者資格審査における加点措置を継続していくとともに、他業種に対する職場のワーク・ライフ・バランス実現に向けた取組の誘引策を検討していく。	佐藤(央)委員	子ども総務課
1013 (P4) 4052 (P187)	両親学級	夫婦での参加率が高く評価できる。このような機会に、男性の育児休業利用者の体験談などを聞く時間を設けてはどうか。	平成12年から14年までは、「先輩パパの体験談」を設けていたが、講師の確保が難しく、平成15年からは、テキストや助産師の講話の中で、父親の育児参加の大切さについて説明している。また、会場には、先輩ママからの夫の協力についての声をポスターにして掲示している。	佐藤(央)委員	子ども健康課
1087 (P58)	私立保育所障がい児保育事業	発達障がい児受け入れの場合は、2/3の補助額となっているが、保育士は1日中(子どもがいる間)の配置となっているので、厳しい現状ではあるが、補助が出るだけでも助かる。継続されることを望む。	障がい児に加え、何らかの発達障がいと診断された児童を軽度障がい児として対象を拡大し、保育士加配経費として障がい児の2/3を補助している。障がい児保育の半数以上が軽度障がい児であることから、現状どおり継続して保育環境を支援していくこととしている。	中川委員	子ども育成課
2011 (P63)	私立保育所一時預かり事業	一時預かりを利用する保護者が増えてきているが、母親の勤務の関係や里帰り出産などにより、市外からの問い合わせも多くなっていることから、秋田市以外の地域からの受け入れについても考慮していただきたい。	事業の対象となる児童は、私立認可保育所を利用する市内在住児童に限られ、補助金により利用料が軽減されている。	中川委員	子ども育成課

取組・事業No. (取組・事業検証シート掲載ページ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
2016 (P67)	病児・病後児 保育事業	働く保護者支援の面から見ると大事な事業だと思うので、継続していただきたい。年度途中で計画時と利用数が違ってくることもあるが、補助金は確保していただきたい。	当該事業は核家族における需要が高く、病気の回復期にある小学3年生までの児童に対し、乳児院(1施設)および保育所(4施設)に付設された専用スペースで、保育士に加え、看護師による一時的な保育サービスを行うもので、補助金についても現状どおり行うこととしている。	中川委員	子ども 育成課
2011 (P62)	延長保育事業	保護者の勤務時間を見ると、午後6時以降の延長保育は、ほとんどの保護者が必要しているところなので、引き続き継続されることを望む。中には、2時間延長をしている保育所もあるが、親子の時間が大切な幼児期であることを考慮すると、そこは迷うところである。	就労形態の多様化等に伴う延長保育の需要に対応するため、全ての認可保育所で延長保育を行う体制としている。2時間以上(19時以降)の延長保育を実施している施設は、11保育所となっており、需要に応じて各施設が行っている。	中川委員	子ども 育成課
2045 (P91)	地域子育て支 援ネットワーク 事業	地域の中で、本当に支援を必要とする家庭にいかんにか情報を提供していくのが課題であると思う。地域の子育て世帯の把握が困難ではないか。	子育てに関する情報提供は、これまで広報あきたや市ホームページ等で行ってきた。しかしながら、地域の子育て世帯すべてに情報を提供することは困難であることから、地域子育て支援ネットワーク連絡会を立ち上げ、委員が連携してできるだけ多くの子育て世帯に情報が届くよう努めている。具体的には、地域で行われているさまざまな子育て支援活動を掲載した情報誌を各地域ごとに作成し、全戸配布しているほか、スーパーや銀行等にも置いてもらうなど、地域のみならずと相談しながら、さまざまな方法で情報提供を行っている。 今後も、各地域の実情に合わせ、よりよい方法を検討し、実施していく。	中川委員	子ども未来 センター
2051 (P98)	放課後児童健 全育成事業	保育所を利用している保護者にとって、小学校入学にあたり、放課後の学童保育の有無は大きな問題であり、地域によっては、苦慮している保護者も多いため、早急な対応を望む。	市が委託している放課後児童クラブは年々増加傾向にあり、平成24年度で34クラブとなっている。クラブは全小学校区に開設していないが、半数のクラブは、クラブの開設されていない学区の児童も対象にバス等による迎えを行うなど、保護者にとって、クラブを利用しやすい状況になってきている。	中川委員	子ども育成 課
1042 (P24)	乳幼児医療費 の助成	秋田市だけが、県の子ども医療費助成拡大の実施ができないことは残念である。	子育て支援策は、各市町村がそれぞれの実情に応じて、環境整備などを含めた総合的な施策を講じていくべきものと考えている。本市としては、抵抗力が弱く病気にかかりやすい乳幼児や、低所得者層に特に手厚くすることを念頭に平成25年8月からの制度の拡充を予定しているとともに、市民要望の強い病児保育の実施等とあわせた総合的な子育て支援策の構築を予定している。	古田委員	障がい 福祉課

取組・事業No. (取組・事業検証シート掲載ページ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
1063 (P40)	養育支援訪問事業	支援を必要とする世帯が増加しているにもかかわらず、予算が減額されているが、必要な支援が受けられない世帯が出てくるのではないかと心配である。	平成24年度予算額の減額の主な要因は、23年度に計上していた当該事業専用の軽自動車1台とパソコンの購入経費がなくなったことによるもので、事業を実施する上で必要な養育支援関連経費や事業運営関連経費は減額していない。今後も、支援が必要な家庭に対しては、適切な養育の実施が確保できるよう支援していく。	古田委員	子ども未来センター
4061 (P189)	保育所定員拡大整備事業	希望の保育所に入れてよかったとか、求職中にもかかわらず預けることができよかったという声を聞いている。	本市では、就学前児童数は減少しているものの、保育所入所児童数は逆に増加傾向が続いている。こうした中、平成21～22年度にかけて既存認可保育所の増築、増改築による定員拡大や新たな認可保育所の創設を集中的に行うなど、受入枠を590人拡大したところである。今後も、各保育所との連携を密にしながら、拡大した受入枠のもと、公正かつ柔軟な入所審査・調整に努めていく。	古田委員	子ども育成課
—	取組・事業全般	子ども未来部の創設、待機児童の解消等の取組の成果が見られ、評価できる。今後は、子ども未来部の設置により見えてきた幼稚園・保育所の助成制度等についての精査整理、さらには国の施策の方向を睨んだ検討を進めてほしい。	現在、国において「子ども・子育て新システム」関連法案の審議が続いているが、その動向を見極めながら、本市の幼稚園、保育所に関する各種施策の見直し・拡充に反映できるように努めていく。	渡辺委員	子ども育成課
2021 (P67)	児童福祉施設整備事業	待機児童が2年連続でゼロになったことは、当局の取組の成果で評価できる。取組・事業検証シートの課題・改善点・対応方針等で、「保護者が選ぶ保育所への入所が円滑に進むよう総合的な解消策に取り組んでいく」とあるが、この際、市当局が児童を割り振りする保育所の定員増は必要なく、直接契約を行う認定こども園の拡充および大幅に定員割れしている幼稚園の活用を図るべきである。総費用が安くなる。	本市の今後の方向性としては、既存保育所における現行施設のままで定員増を図っていくほか、老朽化による改築時に必要に応じた定員増や、幼稚園での認定こども園制度による未満児保育の促進などにより、待機児童の推移を見ながら緊急性や優先度を捉え、必要な施設の整備を進めていく。	渡辺委員	子ども育成課
2035 (P79)	幼保小研修会の充実および幼児と児童の交流活動の推進	幼稚園、保育園児と小学生の交流は、かなり浸透してきているが、今後は、小学校の教師と幼稚園・保育園の教員・保育士間の交流の推進を図るべきである。例えば、それぞれの授業参観・保育参観の機会を多く持ち、子どもの育ちの共通理解を図るのもよいと考える。	平成23年度は、全ての小学校が幼稚園、保育所等との情報交換を行うとともに、約90%（40校）の小学校において、授業参観を実施している。今後も研修会や情報交換会等とおし、相互連携を図るよう努めるとともに、授業および保育の相互参観など、小学校教員と幼稚園教諭、保育士の交流機会の拡充を図っていく。	渡辺委員	学校教育課

取組・事業No. (取組・事業検証 シート掲載ペー ジ)	取組・事業名	提 言 内 容	回 答	提言者	担 当 課
2042 (P83)	保育所在宅子 育て支援事業	在宅子育て支援事業は、全認可保育所となっているが、全保育所・全幼稚園とすべきである。	地域ぐるみでの子育て支援体制を構築する過程において、それぞれの役割を勘案しながら検討していく。	渡辺委員	子ども 育成課